

## 独立行政法人水産総合研究センター基礎項目及びウエイト一覧表

基礎項目	項 目 名	項目種類	ウエイト
	第 1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	大 項 目	
	1 評価・点検の実施	中 項 目	18 / 100
	2 競争的研究環境の醸成	中 項 目	18 / 100
	3 研究支援業務の効率化及び充実・高度化	中 項 目	23 / 100
	4 研究の連携と協力の推進	中 項 目	23 / 100
	5 管理事務業務の効率化	中 項 目	18 / 100
	第 2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	大 項 目	
	1 試験及び研究並びに調査	中 項 目	
	(1) 水産資源の持続的利用のための調査研究の高度化	小 項 目	6.75 / 100
	(2) 水産生物の機能の解明及び積極的な資源造成と養殖技術の高度化	小 項 目	13.5 / 100
	(3) 水域生態系の構造・機能及び漁場環境の動態の解明とその管理・保全技術の開発	小 項 目	15.3 / 100
	(4) 水産業の安定的経営と漁業地域の活性化のための研究の推進	小 項 目	2.7 / 100
	(5) 消費者ニーズに対応した水産物供給の確保のための研究の推進	小 項 目	2.7 / 100
	(6) 国際的視野に立った研究の推進	小 項 目	4.05 / 100
	2 専門分野を活かした社会貢献	中 項 目	30 / 100
	3 研究成果の公表、普及、利活用の促進	中 項 目	25 / 100
	第 3 予算（人件費の見積りを含む）収支計画及び資金計画	大 項 目	
	1 予算及び収支計画等	中 項 目	60 / 100
	2 短期借入金の限度額	中 項 目	20 / 100
	3 外部資金の獲得	中 項 目	20 / 100
	4 剰余金の使途	中 項 目	- / 100
	第 4 その他農林水産省で定める業務運営に関する事項	大 項 目	
	人事に関する計画( 人員及び人件費の効率化に関する目標を含む。)	中 項 目	100 / 100

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
基礎項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

基礎項目名	第 1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 1 評価・点検の実施	
基礎項目のウエイト数値	18 / 100	
自己評価結果	ラ ン ク	A : 計画に対して業務が順調に進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(備 考) ・センターの運営及び研究の評価については、外部委員を加えた評価会議を設置し、評価を開始した。また、運営会議等を設置し、評価の総括を行うとともに、業務運営の円滑化に努めた。 ・職員の評価方法及び反映方法について検討を行った。研究職員の評価については試行までに至らなかった。	
上記自己評価に対する評価委員会における検証  (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	A : 計画に対して業務が順調に進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(所 見) ・事業所が多数にのぼるうえ、全国に展開していることから、一部で十分な「評価・点検」が実施できなかったことは理解できる。この点について、適切な自己評価がなされている。 ・今後は他機関での実績等を参考にしつつ、効率的かつ効果的な評価方法について検討されたい。 ・ただしその際、本来の研究業務に支障が出るほど評価に多大な労力をかけることは本末転倒となる。通常の研究活動が、スムーズに評価につながるようなシステムを作られるよう希望する。 ・効率的な会議の運用を望みたい。	
評価委員会水産分科会(委員名)	山下委員、土井委員	

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
基礎項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

基礎項目名	第 1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 2 競争的研究環境の醸成	
基礎項目のウエイト数値	18 / 100	
自己評価結果	ラ ン ク	<p>Ⓐ : 計画に対して業務が順調に進捗している</p> <p>Ⓑ : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>Ⓒ : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(備 考)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農林水産省、文部科学省、環境省等に関しては、公募によるプロジェクト研究に提案及び公募をし、外部資金獲得に努めた。</li> <li>・経常研究課題の予算査定と企画内容評価により研究資源の重点配分等を実施、農林水産省等への応募には、内容のブラッシュアップに協力し獲得に努め、社会人大学院等のシステムを活用し学位取得を奨励、所内プロ研等研究資金の重点配分に努め、競争的環境の醸成を進めた。</li> </ul>	
上記自己評価に対する評価委員会における検証  (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	<p>Ⓐ : 計画に対して業務が順調に進捗している</p> <p>Ⓑ : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>Ⓒ : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(所 見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な姿勢は評価されよう。</li> <li>・「業務報告書」によれば、職員から「研究費の重点的配分」を求める声が出ており、それに対応していることも評価できよう。ただ、基礎的研究に従事している職員へも配慮すべき事は言うまでもない。</li> <li>・好ましい競争的研究環境とは、研究・調査目標が明確であると同時に、評価基準が明確・公平・透明であり、評価結果が今後の研究活動に反映するようなものと考え。この際、配置等により不公平があってはならない。</li> <li>・今後も評価の公表に努めるとともに、評価基準などは定期的に見直しをして適正なものにする努力を希望する。</li> </ul>	
評価委員会水産分科会(委員名)	山下委員、土井委員	

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
基礎項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

基礎項目名	第 1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 3 研究支援業務の効率化及び充実・高度化	
基礎項目のウエイト数値	23 / 100	
自己評価結果	ラ ン ク	(A) : 計画に対して業務が順調に進捗している (B) : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している (C) : 計画に対して業務が遅れている
	(備 考) ・各研究所において、船舶・施設・機械に関する利用委員会を開催し、法人内の共同調査・共同利用を実施するなど、効率的運用を図った。 ・法人全体の調査計画を体系的に整理・調整し、水研間の共同調査・多目的調査の推進など効率的運航の推進を図った。 ・研究情報ではデータベース等の構築と利活用、図書業務では電子化を促進させる等、諸業務の効率的な推進を図った。しかし、新規のデータベースの設計に関しては、情報の多さから多くの水産に関する情報の統合、データベース化は実現できなかった。また、外国雑誌の本部一括購入を検討したが、一括購入の長所短所のバランス問題に加え、会計システムの不具合による本部会計部門の業務過多により実施に至らなかった。	
上記自己評価に対する評価委員会における検証  (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	(A) : 計画に対して業務が順調に進捗している (B) : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している (C) : 計画に対して業務が遅れている
	(所 見) ・事業所が多数にのぼっており、また距離的に相互が離れていることから、情報の一元化、データベース化の一層の推進が望まれよう。 ・調査船・研究機器の共同利用や効率的な運用、研究情報の利活用など、研究業務を効率的に推進するのに必要なことは多くある。今後も効率化・共同利用とそれに必要な予算措置(旅費など)を図ることを希望する。	
評価委員会水産分科会(委員名)	山下委員、土井委員	

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
基礎項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

基礎項目名	第 1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 4 研究の連携と協力の推進	
基礎項目の ウエイト数値	23 / 100	
自己評価結果	ラ ン ク	(A) : 計画に対して業務が順調に進捗している (B) : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している (C) : 計画に対して業務が遅れている
	(備 考) ・各種の連絡会や試験研究推進会議等を通じて官民の試験研究期間との間での連携を密にし、また、連携大学院制度の活用や共同研究の実施による研究者交流の促進により、研究の効率化・活性化を図った。 ・PICES にはそれを構成する各種の委員会と各種のシンポジウムに合計 24 名の研究者を派遣し、また、米国で開催された UJNR 増養殖専門部会年次会合には事務局を含め 11 名を派遣するなど、国際的研究活動に積極的に対応した。 ・推進会議や各種事業に積極的に対応し、公立機関等が実施する研究等への協力を行った。	
上記自己評価 に対する評価 委員会にお ける検証  (委員会にお ける基礎項目 評価結果)	ラ ン ク	(A) : 計画に対して業務が順調に進捗している (B) : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している (C) : 計画に対して業務が遅れている
	(所 見) ・各機関との順調な交流、共同研究・共同調査等がみられる。また、国際的研究活動も活発である。 ・一方で、さらなる地域対応研究体制の充実も必要であろう。	
評価委員会水産分科会 (委員名)	山下委員、土井委員	

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
基礎項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

基礎項目名	第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 5 管理事務業務の効率化	
基礎項目のウエイト数値	18 / 100	
自己評価結果	ラ ン ク	<p>Ⓐ : 計画に対して業務が順調に進捗している</p> <p>Ⓑ : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>Ⓒ : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(備 考)</p> <p>・新会計システム導入にあたっては、実際の稼働が大幅に遅れたところであるが、改良に努め、年度後半から稼働し順調に進捗した。また、管理事務業務に関する内部規程を見直し効率化を推進、各種研修制度を活用し、職員の資質向上を図った。</p> <p>・新会計システム開発は、開発期間が不足し、農水省関連独法の統一システムのため、一部において水研センター組織にそぐわない面があったこと、なおかつ、水研センターは独法化の際に支払を本部に集中化し、事務の流れが変わったこと等により、13年度当初からの稼働はできなかったが、職員及び業者の協力により、9月から稼働し、本システムがあるからこそ、会計事務を一元化処理及び簡素化が図れ、決算できたところである。</p>	
上記自己評価に対する評価委員会における検証  (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	<p>Ⓐ : 計画に対して業務が順調に進捗している</p> <p>Ⓑ : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>Ⓒ : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(所 見)</p> <p>・当初は戸惑いがあったようだが、その後の推移は順調といえる。</p> <p>・さらなる業務の一元化、簡素化、処理速度の迅速化が望まれる。</p> <p>・研究者の負担をできるだけ軽減する方向での管理事務の効率化を推進してほしい。</p>	
評価委員会水産分科会(委員名)	山下委員、土井委員	

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
基礎項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

基礎項目名	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 試験及び研究並びに調査 (1) 水産資源の持続的利用のための調査研究の高度化	
基礎項目のウエイト数値	15 / 100 ( 45 / 100 )	
自己評価結果	ラ ン ク	<p>S : 計画を大きく上回って業務が進捗している</p> <p><b>A</b> : 計画に対して業務が順調に進捗している</p> <p>B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>C : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(備 考)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スケトウダラ、マアジ等をモデル魚種とするプロジェクト研究、中央水研、遠洋水研等による解析手法のレビューや改善、及び水工研による機器開発等により予定どおりに研究が進捗した。</li> <li>・海域ごとに海区水研が課題に取り組み、計画どおりの成果を上げた。</li> </ul>	
上記自己評価に対する評価委員会における検証 (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	<p>S : 計画を大きく上回って業務が進捗している</p> <p><b>A</b> : 計画に対して業務が順調に進捗している</p> <p>B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>C : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(所 見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TAC 対象種を主体に、我が国周辺海域の主要水産資源について、計画どおり着実な成果を上げている。</li> <li>・各水産研究所が主体となった地域主要資源に対する取り組みは、調査・解析手法を含め関連する研究所との一層の連携を期待したい。</li> <li>・一部人員・予算不足・プロジェクト研究中止等により、計画変更したのものもあるが、柔軟かつ適切に対応されていると考える。</li> <li>・論文などの成果の公表にも力を入れるよう希望する。</li> </ul>	
評価委員会水産分科会(委員名)	櫻本委員、岩田専門委員、安田専門委員	

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
基礎項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

基礎項目名	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 試験及び研究並びに調査 (2) 水産生物の機能の解明及び積極的な資源造成と養殖技術の高度化	
基礎項目のウエイト数値	30 / 100 (45 / 100)	
自己評価結果	ラ ン ク	S : 計画を大きく上回って業務が進捗している (A) : 計画に対して業務が順調に進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
(備 考) ・水産生物の機能・形態及び水産生物遺伝資源に関する研究を推進した。繁殖機構・制御技術関係、養殖漁場・環境制御関係、病害の予防・防除関係及び遺伝的制御関係の諸問題を解決するため課題を設定し対応した。また、我が国周辺海域及び内水面における資源培養技術の高度化を目的に課題を推進した。		
上記自己評価に対する評価委員会における検証  (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	S : 計画を大きく上回って業務が進捗している (A) : 計画に対して業務が順調に進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
(所 見) ・資源造成や養殖技術の高度化に向けて、遺伝子レベルの研究から野外生態学的研究まで、幅広く順調に研究が進んでいる。 ・DNA 解析等遺伝子レベルの究明が積極的に取り組まれているが、左記の研究は、国の重要施策にも位置づけられており、ますます研究が進展していくことを希望する。また、水産関係における DNA 解析等遺伝子レベルからの取り組みは始まったばかりであり、水研センターが中心となり地方水試等への技術指導を含めた連携強化を期待する。		
評価委員会水産分科会(委員名)	櫻本委員、岩田専門委員、安田専門委員	



平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
基礎項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

基礎項目名	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 試験及び研究並びに調査 (3) 水域生態系の構造・機能及び漁場環境の動態の解明とその管理・保全技術の開発	
基礎項目のウエイト数値	34 / 100 (45 / 100)	
自己評価結果	ラ ン ク	S : 計画を大きく上回って業務が進捗している A : 計画に対して業務が順調に進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
(備 考) ・御前崎・Aライン等の我が国周辺の水塊を特徴づける定線観測を行い、状況の把握に努め、それらの解析から海域の特性の解明を順調に続けている。 ・有毒プランクトンなどの漁業への影響が懸念されるものについて、その発生機構の解明と予測技術の高度化に向けて順調に進捗している。		
上記自己評価に対する評価委員会における検証  (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	S : 計画を大きく上回って業務が進捗している A : 計画に対して業務が順調に進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
(所 見) ・投入されている研究費・課題数に対して、携わる研究者数は少なく、また、モニタリングが主体となるため、成果の出しにくい項目であるにもかかわらず、着実な成果を上げており高く評価する。 ・課題数も多く、業務としても重要な分野であるため、積極的な対応が必要である。水産研究所の調査能力の高さを生かして、益々成果を挙げるよう希望する。 ・一部の課題については、大学や地方水試との役割分担が整理されないまま実施されているように思われるので、内容の精査を検討されたい。 ・基礎的な研究を大切に、水産業の基盤となる研究が推進されることを期待する。		
評価委員会水産分科会(委員名)	櫻本委員、岩田専門委員、安田専門委員	

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
基礎項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

基礎項目名	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 試験及び研究並びに調査 (4) 水産業の安定的経営と漁業地域の活性化のための研究の推進	
基礎項目のウエイト数値	6 / 100 ( 45 / 100 )	
自己評価結果	ラ ン ク	S : 計画を大きく上回って業務が進捗している (A) : 計画に対して業務が順調に進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(備 考) ・漁船漁業の安全性・省力化の推進、沿岸域の物理環境の把握、藻場生物の定量、漁港の水域環境改善、新型魚礁の開発、漁港の労働条件の把握、マグロ供給面の分析、沖合底曳漁業の経営データ分析、産地集出荷拠点実態調査、観光底曳の実施状況把握、水産業活力各種指標の選定などを行った。	
上記自己評価に対する評価委員会における検証  (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	S : 計画を大きく上回って業務が進捗している (A) : 計画に対して業務が順調に進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(所 見) ・今後の水産業振興策は、漁獲量の増大から、収益率の向上による漁家収入の確保、増大へのシフトが必要であるが、これに対応する大切な項目である。 ・13年度は、全課題とも新規であり、一部計画どおり進捗できなかった課題も見られる。しかし、新たな視点からの取り組みであり、今後一層の充実を図るための第一歩としては十分な成果を上げたと判断できる。	
評価委員会水産分科会(委員名)	櫻本委員、岩田専門委員、安田専門委員	

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
基礎項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

基礎項目名	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 試験及び研究並びに調査 (5) 消費者ニーズに対応した水産物供給の確保のための研究の推進	
基礎項目のウエイト数値	6 / 100 ( 45 / 100 )	
自己評価結果	ラ ン ク	S : 計画を大きく上回って業務が進捗している A : 計画に対して業務が順調に進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(備 考) ・水産物は他の食品と比べて品質の劣化速度が速く、また、微生物的劣化も陸上動植物とは異なる。そのため、水産物の品質と安全性の評価及び品質保持、安全性確保に関する技術開発を進めている。 ・また、地球上の水圏生物が生成する物質を多面的かつ高度に利用し、さらに水産加工残滓のような廃棄資源をリサイクル利用するための技術開発として、魚介藻類中の機能成分の探索とその特性の把握、健全な食生活構築のための食品成分の生体調節機能の解明を推進している。	
上記自己評価に対する評価委員会における検証  (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	S : 計画を大きく上回って業務が進捗している A : 計画に対して業務が順調に進捗している B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している C : 計画に対して業務が遅れている
	(所 見) ・この分野は水産基本法で実施すべき事項として明示された重要事項である。また、最近発生した食品の安全性が危惧される事件等もあり、消費者からも上記のような研究の推進が厳しく求められている。 ・13年度実施課題については、概ね計画どおりに進捗しており、成果は上がっているが、課題設定は、より消費者側の視点を入れた内容に改善していく必要があると考えられる。	
評価委員会水産分科会(委員名)	櫻本委員、岩田専門委員、安田専門委員	

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
基礎項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

基礎項目名	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 試験及び研究並びに調査 (6) 国際的視野に立った研究の推進	
基礎項目のウエイト数値	9 / 100 ( 45 / 100 )	
自己評価結果	ラ ン ク	<p>S : 計画を大きく上回って業務が進捗している</p> <p><b>A</b> : 計画に対して業務が順調に進捗している</p> <p>B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>C : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(備 考)</p> <p>・複数個体同時追跡超音波システムや照度温度等の情報記録型標識等のハイテク機器を用いたまぐろ類の生態研究、まぐろ類、鯨類、いか類の年齢形質の特定と齢査定技術の向上、アカイカやオキアミの分布と海洋環境との関係、体長を用いた資源評価初期モデルを開発などで成果を上げ、順調に進捗している。</p> <p>・複数の定線観測の結果を解析し、親潮中層流量の季節変動と季節風の関係や亜寒帯循環との関係を見いだした。また、CO2 循環における生物の役割を把握するため、円石藻・コンブ類・ガラモ場やアラメ場等の藻場・造礁サンゴ類についての解析を行い、順調に進捗している。</p>	
上記自己評価に対する評価委員会における検証  (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	<p>S : 計画を大きく上回って業務が進捗している</p> <p><b>A</b> : 計画に対して業務が順調に進捗している</p> <p>B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>C : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(所 見)</p> <p>・カツオ・マグロ類や鯨類に関連する試験研究は、国際的に重要であり、我が国の国益を確保する上で着実に成果をあげることが求められている。この分野については、計画どおり順調に進捗しており、特に、研究成果を論文等により外部に対して積極的に公表している点は高く評価できる。</p> <p>・地球規模の環境変動に関する取り組みは、我が国が、海洋国、水産国として率先し世界をリードしていく必要があり、今後とも水産研究所の調査能力の高さを生かし、また、関係機関との一層の連携を深め、より多くの研究成果があがることを期待する。</p>	
評価委員会水産分科会(委員名)	櫻本委員、岩田専門委員、安田専門委員	

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
基礎項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

基礎項目名	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 専門分野を活かした社会貢献	
基礎項目のウエイト数値	30 / 100	
自己評価結果	ラ ン ク	<p>Ⓐ : 計画に対して業務が順調に進捗している</p> <p>Ⓑ : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>Ⓒ : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(備 考)</p> <p>・赤潮、貝毒、病原生物の分析鑑定、資源管理・海洋測器・魚病診断等の講習、国及び団体の要請による講師の派遣、連携大学院生、特定交流協同研究員の受け入れ、JICA、水産庁、SEAFDEC、JIRCAS 等の要請に応じた海外への研究者派遣を実施した。大会事務局を受けて水産海洋学会を主催するとともに、日本水産学会の評議会に委員を、また関係省庁、漁業者団体等の委員会(271委員会)に職員(延べ302名)を派遣した。委託事業に積極的に対応するとともに、水産生物遺伝資源試料を国内外から収集し、分類及び特性評価を行うとともに、DNA に関するデータバンクを設立した。</p>	
上記自己評価に対する評価委員会における検証  (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	<p>Ⓐ : 計画に対して業務が順調に進捗している</p> <p>Ⓑ : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>Ⓒ : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(所 見)</p> <p>・地方水試等から要請のあった分析・鑑定業務や講習・研修等について誠実に対応しており、評価する。また国際機関等へも積極的に対応していると認められる。</p> <p>・13年度は有明海のノリ不作問題対策として設置された「第三者委員会」への対応や中期計画にはない行政対応特別研究を着実に実施し、2000年漁期の顕著な不作の原因解明のための研究を実施するなど、大きな成果を上げた。</p>	
評価委員会水産分科会(委員名)	櫻本委員、岩田専門委員、安田専門委員	

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
基礎項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

基礎項目名	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 研究成果の公表、普及、利活用の促進	
基礎項目のウエイト数値	25 / 100	
自己評価結果	ラ ン ク	<p>Ⓐ : 計画に対して業務が順調に進捗している</p> <p>Ⓑ : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>Ⓒ : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(備 考)</p> <p>・得られた研究成果は学術誌、センター研報(3回発行:目標3回) 学会等を活用して積極的に発表(論文公表303編で0.80編/人:目標0.8編以上/人、口頭発表544件、その他発表293件)したほか、センター主催の日本・韓国・中国海洋水産資源シンポジウム等の開催(3回開催:目標1回) 単行本・マニュアルの発行(分担執筆6編を含む9編:目標3編以上) 特許出願(13件:目標3件以上)を行い、これらについて、プレスリリース、センターニュース、センターホームページを通じて積極的に広報した。</p> <p>・研究成果等のうち資源特性評価、資源量評価、特定疾病診断、漁港漁場の施設設計等については、行政機関等が策定する基準・指針等へ反映されている。</p> <p>・全水研・2支所・3庁舎における一般公開や、養殖研究所日光支所の観覧業務を通じて、水産研究所の業務を広く一般に広報した。</p>	
上記自己評価に対する評価委員会における検証  (委員会における基礎項目評価結果)	ラ ン ク	<p>Ⓐ : 計画に対して業務が順調に進捗している</p> <p>Ⓑ : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>Ⓒ : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>(所 見)</p> <p>・研究成果の公表について、論文数は目標を達成しており、着実な実績をあげている。さらなる論文発表の充実に期待する。</p> <p>・普及・利活用の促進についても、ホームページの充実や、特許出願等、積極的な対応がなされている。また、水産研究所で取得した調査データ等については、ある一定期間の後の公開を推進するよう検討されることを希望する。</p>	
評価委員会水産分科会(委員名)	櫻本委員、岩田専門委員、安田専門委員	

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
基礎項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

基礎項目名	第3 予算（人件費の見積りを含む）収支計画及び資金計画 1 予算及び収支計画等	
基礎項目の ウエイト数値	60 / 100	
自己評価結果	ラ ン ク	<p>○A : 対応は十分であった B : 対応は概ね十分であった C : 対応は不十分であった</p>
	<p>1 - 1 ) 経費（業務経費及び一般管理費）削減に係る取り組み（支出の削減についての具体的方針及び実績等） A : 取り組みは十分であった B : 取り組みは概ね十分であった C : 取り組みは不十分であった</p> <p>1 - 2 ) 法人運営における資金の配分状況（人件費、業務経費、一般管理費等法人全体の配分方針及び実績、関連する業務の状況、予算決定方式等） A : 効果的な資金の配分は十分であった B : 効果的な資金の配分は概ね十分であった C : 効果的な資金の配分は不十分であった</p> <p>1 - 3 ) 施設及び船舶整備計画（中期計画に定められている施設及び設備について、当該年度における改修・整備前後の業務運営の改善の成果） A : 改善の成果は十分であった B : 改善の成果は概ね十分であった C : 改善の成果は不十分であった</p>	
<p>（備 考）</p> <p>・本部から各水産研究所への予算配分において、前年実績の1割程度を査定し削減したので、各水産研究所においては、その範囲内で業務運営する必要がある、どうしても削減せざるを得なかった。たとえば、中央水産研究所においては、毎月の部課長会議で経費削減について議題が提出されており、経費削減の経過が報告された。具体的には施設維持管理費や光熱水料等（廊下の消灯等電灯は必要以外は消す、コピー用紙の削減等）できるところから削減計画を立て、実施し、効果を上げた。</p> <p>・法人運営における資金の配分については、人件費は必要最低限の配分に、管理運営費は前年実績の1割程度を査定し削減、経常研究課題に関しては、課題ごとの予算積算方式を導入し、研究所及び本部による予算査定と課題の企画内容の評価を通じて、研究資源の重点配分した。その他事業費についても、研究課題の重点化及び予算査定を通じて効率化を図るなど、法人全体が効率化を図れるよう資金の配分を行った。</p> <p>・新俊鷹丸は、平成13年4月27日に竣工し、航海速力が13ノットから15ノットとアップし、船の大きさも396トンから887トンと大型化され、短期間で遠洋域まで航海ができるようになった。（ハワイ沖のイカ調査まで可能となった）探鯨ソナー、ヒープモーションクレーン、バイオテレメトリー等が装備されたため、トロール、延縄、</p>		

	イカ釣り等の各操業と生物追跡、海洋観測等の多目的調査が可能となり、調査対象種の拡大とともに調査効率が大幅に向上した。	
<p>上記自己評価に対する評価委員会における検証  (委員会における基礎項目評価結果)</p>	<p>ラ ン ク</p>	<p>Ⓐ : 対応は十分であった        Ⓑ : 対応は概ね十分であった        Ⓒ : 対応は不十分であった</p>
	<p>1 - 1 ) 経費 (業務経費及び一般管理費) 削減に係る取り組み (支出の削減についての具体的方針及び実績等)        Ⓐ : 取り組みは十分であった        Ⓑ : 取り組みは概ね十分であった        Ⓒ : 取り組みは不十分であった</p> <p>1 - 2 ) 法人運営における資金の配分状況 (人件費、業務経費、一般管理費等法人全体の配分方針及び実績、関連する業務の状況、予算決定方式等)        Ⓐ : 効果的な資金の配分は十分であった        Ⓑ : 効果的な資金の配分は概ね十分であった        Ⓒ : 効果的な資金の配分は不十分であった</p> <p>1 - 3 ) 施設及び船舶整備計画 (中期計画に定められている施設及び設備について、当該年度における改修・整備前後の業務運営の改善の成果)        Ⓐ : 改善の成果は十分であった        Ⓑ : 改善の成果は概ね十分であった        Ⓒ : 改善の成果は不十分であった</p>	
	<p>(所 見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価に述べられているように、目標どおりの経費の削減が行われている。資金の配分も研究課題の重点化・効率化に配慮されていると思料される。</li> <li>・新調査船は能力が大幅に改善されており、今後の活躍が期待される。</li> <li>・なお、財産の処分に関して、適正な手続を採るべく方策を検討されたい。</li> </ul>	
<p>評価委員会水産分科会 (委員名)</p>	<p>会田委員、西村委員、安成専門委員</p>	



平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
基礎項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

基礎項目名	第3 予算（人件費の見積りを含む）収支計画及び資金計画 2 短期借入金の限度額	
基礎項目の ウエイト数値	20 / 100	
自己評価結果	ラ ン ク	借入の有無、借入に至った場合の理由、使途、金額、金利、手続、返済状況と見込み A : 借入は行われなかった、又は借入に至った理由等は適切であった B : 借入に至った理由等は概ね適切であった C : 借入に至った理由等是不適切であった
	（備 考） ・短期借入は行わなかった。	
上記自己評価 に対する評価 委員会におけ る検証	ラ ン ク	借入の有無、借入に至った場合の理由、使途、金額、金利、手続、返済状況と見込み Ⓐ : 借入は行われなかった、又は借入に至った理由等は適切であった B : 借入に至った理由等は概ね適切であった C : 借入に至った理由等是不適切であった
	（所 見）	
（委員会にお ける基礎項目 評価結果）		
評価委員会水産分科会（委員名）	会田委員、西村委員、安成専門委員	

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
基礎項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

基礎項目名	第3 予算（人件費の見積りを含む）収支計画及び資金計画 3 外部資金の獲得	
基礎項目の ウエイト数値	20 / 100	
自己評価結果	ラ ン ク	受託収入、競争的資金及び自己収入増加についての具体的方針及び実績等 (A) : 取り組みは十分であった B : 取り組みは概ね十分であった C : 取り組みは不十分であった
	(備 考) ・農林水産省、文部科学省、環境省等の公募型プロジェクト研究に積極的に応募し、実現に努めた。 ・水産庁が実施する事業について、課題の提案に努め、予算化された課題に対しては積極的に対応し、外部資金獲得に努めた。	
上記自己評価 に対する評価 委員会におけ る検証  (委員会にお ける基礎項目 評価結果)	ラ ン ク	受託収入、競争的資金及び自己収入増加についての具体的方針及び実績等 (A) : 取り組みは十分であった B : 取り組みは概ね十分であった C : 取り組みは不十分であった
	(所 見) ・業務活動収入のうちの受託収入と自己収入で28%を占めており、外部資金獲得のための取り組みが充分行われたと思われる。	
評価委員会水産分科会（委員名）	会田委員、西村委員、安成専門委員	

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
基礎項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

基礎項目名	第3 予算（人件費の見積りを含む）収支計画及び資金計画 4 剰余金の使途	
基礎項目の ウエイト数値	- / 100	
自己評価結果	ラ ン ク	中期計画に定めた使途に充てた結果、当該事業年度に得られた成果 A : 得られた成果は充分であった B : 得られた成果は概ね充分であった C : 得られた成果は不十分であった
	(備 考) ・該当なし。	
上記自己評価 に対する評価 委員会におけ る検証  (委員会にお ける基礎項目 評価結果)	ラ ン ク	中期計画に定めた使途に充てた結果、当該事業年度に得られた成果 A : 得られた成果は充分であった B : 得られた成果は概ね充分であった C : 得られた成果は不十分であった
	(所 見) ・該当なし	
評価委員会水産分科会（委員名）		

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
基礎項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

基礎項目名	第4 その他農林水産省で定める業務運営に関する事項 人事に関する計画（人員及び人件費の効率化に関する目標を含む。）	
基礎項目の ウエイト数値	100 / 100	
自己評価結果	ラ ン ク	<p>○A : 計画に対して業務が順調に進捗している</p> <p>B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>C : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>（備 考）</p> <p>・効率化に関する4つのワーキンググループ（組織、船舶、評価、効率）を設置し、検討した。</p> <p>組織 WG：具体的検討課題を、短期、中期、長期に整理し、短期的な課題として、研究推進部の見直しを行い、平成14年4月1日に組織再編を行った。</p> <p>船舶 WG：船舶運航経費の削減方策及び法人化後の船舶整備計画について検討した。</p> <p>評価 WG：研究職員の業績評価の制度化に向けての試行案を作成した。</p> <p>効率 WG：管理部門の見直しにおいて、文書管理システムを活用し、誰でもオンラインで閲覧でき、必要に応じて印刷できる等、省力化が図られた。また、研究所間の公文書を事務連絡としたため、文書の接受、発出件数が削減され、効率化が図られた。</p> <p>・5名（一般職1名、技術専門職2名、船舶職1名、研究職1名）の効率化減を行った。</p> <p>・有明海のノリ不作問題等への対応として、潟干潟域の生物システム解明に係る強化として、人件費の増額に努めた。</p> <p>・国家公務員採用試験制度の活用により15名（研究職 種7名、一般職 種8名）を採用。また、種試験採用職員では補充が困難な分野において、広く公募を行い、研究職5名の選考採用を行った。さらに、研究員の流動性を図る観点から任期付研究員の任用について検討した。</p> <p>・外部の研究員を積極的に受け入れ、研究活動の活性化を図る観点から、国立大学教授の受入、独立行政法人（国際農林水産業研究センター）及び県（富山県、宮城県）との人事交流を行った。</p>	
上記自己評価 に対する評価 委員会におけ る検証	ラ ン ク	<p>○A : 計画に対して業務が順調に進捗している</p> <p>B : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している</p> <p>C : 計画に対して業務が遅れている</p>
	<p>（所 見）</p> <p>・事業所が多数にのぼり、かつ全国に展開しているといっても、ひとつの組織として生まれ変わった「総合研究センター」である。組織の再編統合、船舶運用等において、さ</p>	

<p>(委員会における基礎項目評価結果)</p>	<p>らに効率的運用が求められている。人事・予算面でも同様の趣旨からより一層の効率化を望む。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・外部に開かれ、流動性のある研究組織は活性化する。これまで以上に外部研究機関との連携を図って発展されることを望む。</li></ul>
<p>評価委員会水産分科会(委員名)</p>	<p>山下委員、土井委員</p>

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
中項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

評価対象 項目名	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 試験及び研究並びに調査		
基礎項目の 評価結果及び ウエイト	基礎項目名	ランク	ウエイト
	(1) 水産資源の持続的利用のための調査研究の高度化	A	15
	(2) 水産生物の機能の解明及び積極的な資源造成と養殖技術の高度化	A	30
	(3) 水域生態系の構造・機能及び漁場環境の動態の解明とその管理・保全技術の開発	A	34
	(4) 水産業の安定的経営と漁業地域の活性化のための研究の推進	A	6
	(5) 消費者ニーズに対応した水産物供給の確保のための研究の推進	A	6
	(6) 国際的視野に立った研究の推進	A	9
評価委員会に おける評価	ランク	(A) : Aの数の割合が80%以上(業務が順調に進捗) B : Aの数の割合が60%以上80%未満(業務が概ね順調に進捗) C : Aの数の割合が60%未満(業務が遅延)	
	(計算式)	$(15 + 30 + 34 + 6 + 6 + 9) / 100 \times 100 = 100.0\%$	
	(所見)	・各項目とも、多岐にわたる課題について概ね順調に進捗しており、着実な成果を上げたことを高く評価する。	
評価委員会水産分科会(委員名)	櫻本委員、岩田専門委員、安田専門委員		

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
大項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

評価対象 項目名	第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置		
基礎項目の 評価結果及び ウエイト	基礎項目名	ランク	ウエイト
	1 評価・点検の実施	B	18
	2 競争的研究環境の醸成	A	18
	3 研究支援業務の効率化及び充実・高度化	A	23
	4 研究の連携と協力の推進	A	23
	5 管理事務業務の効率化	A	18
評価委員会に おける評価	ラ ン ク	(A) : Aの数の割合が80%以上(業務が順調に進捗) B : Aの数の割合が60%以上80%未満(業務が概ね順調に進捗) C : Aの数の割合が60%未満(業務が遅延)	
	(計算式)	$(18 + 23 + 23 + 18) / 100 \times 100 = 82.0\%$	
	(所見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究職員の評価を行う際、本来業務である研究に支障が出ないような、スムーズな評価システムの構築を望む。</li> <li>・事務所が多数にのぼるうえ、全国に展開していることから、情報の一元化・データベース化が望まれる。</li> <li>・各機関との順調な交流、共同研究等が活発であり、評価できる。</li> </ul>	
評価委員会水産分科会(委員名)	山下委員、土井委員		

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
大項目評価票

		独立行政法人水産総合研究センター	
評価対象 項目名	第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置		
基礎項目の 評価結果及び ウエイト	基礎項目名	ランク	ウエイト
	1 試験及び研究並びに調査	A	6.75
	(1) 水産資源の持続的利用のための調査研究の高度化	A	13.5
	(2) 水産生物の機能の解明及び積極的な資源造成と養殖技術の高度化	A	15.3
	(3) 水域生態系の構造・機能及び漁場環境の動態の解明とその管理・保全技術の開発	A	2.7
	(4) 水産業の安定的経営と漁業地域の活性化のための研究の推進	A	2.7
	(5) 消費者ニーズに対応した水産物供給の確保のための研究の推進	A	4.05
	(6) 国際的視野に立った研究の推進	A	3.0
	2 専門分野を活かした社会貢献	A	2.5
3 研究成果の公表、普及、利活用の促進	A		
評価委員会に おける評価	ランク	A : Aの数の割合が80%以上(業務が順調に進捗) B : Aの数の割合が60%以上80%未満(業務が概ね順調に進捗) C : Aの数の割合が60%未満(業務が遅延)	
	(計算式)	$(6.75 + 13.5 + 15.3 + 2.7 + 2.7 + 4.05 + 3.0 + 2.5) / 100 \times 100 = 100.0\%$	
	(所見)	・独立行政法人として初年度であり、業務を推進する上で、種々の問題が発生したと推察するが、業務に大きな遅れがなく着実に実施されたことを高く評価する。	
評価委員会水産分科会(委員名)	櫻本委員、岩田専門委員、安田専門委員		



平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
大項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

評価対象 項目名	第3 予算（人件費の見積りを含む）収支計画及び資金計画		
基礎項目の 評価結果及び ウエイト	基礎項目名	ランク	ウエイト
	1 予算及び収支計画等	A	60
	2 短期借入金の限度額	A	20
	3 外部資金の獲得	A	20
	4 剰余金の使途	-	-
評価委員会に おける評価	ラ ン ク	A : Aの数の割合が80%以上（業務が順調に進捗） B : Aの数の割合が60%以上80%未満（業務が概ね順調に進捗） C : Aの数の割合が60%未満（業務が遅延）	
	（計算式）	$(60 + 20 + 20) / 100 \times 100 = 100.0\%$	
	（所見）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標どおりの経費削減が行われているとともに、資金の配分も研究課題の重点化・効率化に配慮されている。</li> <li>・外部資金獲得のための取り組みは充分行われたと思慮する。</li> </ul>	
評価委員会水産分科会（委員名）	会田委員、西村委員、安成専門委員		

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
大項目評価票

独立行政法人水産総合研究センター

評価対象 項目名	第 4 その他農林水産省で定める業務運営に関する事項		
基礎項目の 評価結果及び ウエイト	基礎項目名	ランク	ウエイト
	人事に関する計画（人員及び人件費の効率化に関する目標を含む。）	A	100
評価委員会に おける評価	ラ ン ク	A : Aの数の割合が80%以上（業務が順調に進捗） B : Aの数の割合が60%以上80%未満（業務が概ね順調に進捗） C : Aの数の割合が60%未満（業務が遅延）	
		（計算式）	
		（所 見） ・外部に開かれ、流動性のある組織は活性化する。これまで以上に外部研究機関との連携を図ることを望む。 ・人事・予算面でより一層の効率化を望む。	
評価委員会水産分科会（委員名）		山下委員、土井委員	

平成 13 年度 独立行政法人水産総合研究センター業務実績評価  
総合評価票

		独立行政法人水産総合研究センター	
大項目の 評価結果	項 目 名		ラ ン ク
	第 1	業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A
	第 2	国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	A
	第 3	予算（人件費の見積りを含む）収支計画及び資金計画	A
	第 4	その他農林水産省で定める業務運営に関する事項	A
そ の 他 の 検 討 事 項	項 目 名		所 見
	中期計画の「第 2 - 1 試験及び研究並びに調査」における S 評価の有無・内容		基礎項目において、S 評価とされた項目はなかった。（水研センターの部内評価において、基礎項目の下の個別課題 337 課題中 48 課題が S 評価となっている）
	財務諸表の内容		内容において、特に問題とすべき点はなかった。
	業務運営の効率化への取組状況		効率化のための取組状況は良好である。
	中期計画に記載されている事項以外の特筆すべき業績		有明海における「ノリ不作問題」に関し、調査・研究の面から大きく貢献したと認められる。
災害対策等緊急的業務への対応状況		緊急業務への対応に関し、該当事項はなかった。	
総 合 評 価	ラ ン ク	(A) : 計画に対して業務が順調に進捗している (B) : 計画に対して業務が概ね順調に進捗している (C) : 計画に対して業務が遅延している	
	(所 見) ・「大項目の評価結果」がすべて「A」と評価されており、計画に対して業務が順調に進捗していると認められること、また、「その他の検討事項」において、特に問題とすべき事由がないことから、総合評価を「A」とすることが妥当である。  第 1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 ・研究職員の評価を行う際、本来業務である研究に支障が出ないような、スムーズな評価システムの構築を望む。 ・事務所が多数にのぼるうえ、全国に展開していることから、情報の一元化・データベース化が望まれる。 ・各機関との順調な交流、共同研究等が活発であり、評価できる。  第 2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置		

・独立行政法人として初年度であり、業務を推進する上で、種々の問題が発生したと推察するが、業務に大きな遅れがなく着実に実施されたことを高く評価する。

第3 予算（人件費の見積りを含む）収支計画及び資金計画

- ・目標どおりの経費削減が行われているとともに、資金の配分も研究課題の重点化・効率化に配慮されている。
- ・外部資金獲得のための取り組みは充分行われたと思慮する。

第4 その他農林水産省で定める業務運営に関する事項

- ・外部に開かれ、流動性のある組織は活性化する。これまで以上に外部研究機関との連携を図ることを望む。
- ・人事・予算面でより一層の効率化を望む。

評価委員会水産分科会（委員名）

小野分科会長